## 朝鮮民族文化研究分野

# 韓国の学会・社会が注目する、本研究室の積年の研究成果

教授
成澤　勝

取材 / 収録風景

番組タイトル「味摩之」

放送中における解説場面

番組の中で紹介される本学と本学所蔵の資料

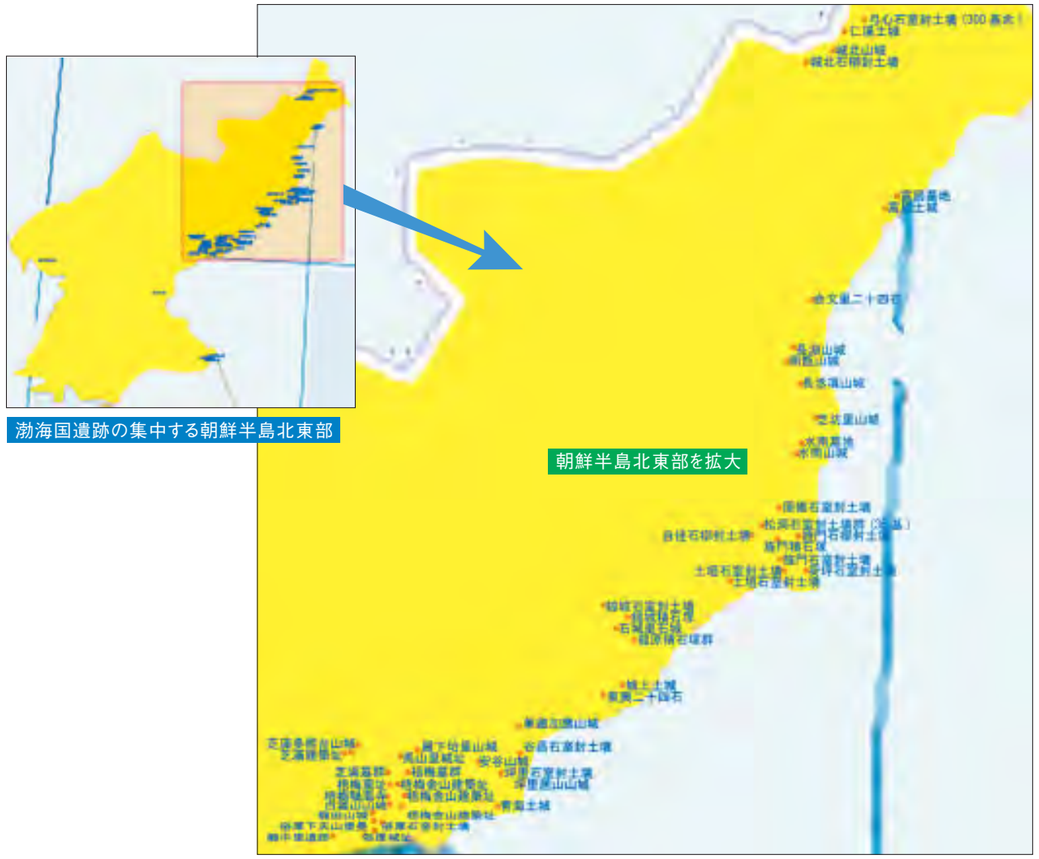
### [韓国]MBC 放送、本研究室研究成果取材

韓国最大の民放、MBC の取材チーム（プロデューサ、TV カメラマン、コーディネータたち）が特別企画「歴史ドキュメンタリー【味摩之】(2005 年度放送振興事業選定作品 )」制作に向けて本研究室を来訪し研究成果「味摩之伎楽舶載地の研究」を取材した。

飛鳥朝に百済人味摩之によって伝えられた伎楽は中国南方呉地方からの舶載であると見なされてきたが、本研究室では長年の詳細な文献調査、考古資料の検証を通して、これが朝鮮半島中部地域からの舶載であることを実証し、詳細が解明される都度、専門学術誌に発表してきた。従来の説が 180 度転換して、伎楽が朝鮮半島において舶載されたことが判明したことにより、伎楽と朝鮮半島在来の演劇芸能との系統性を説くことが出来るようになった。つまり朝鮮芸能進化のミッシングリンクの解明を可能にした。これによって朝鮮芸能史研究が一挙に進展し、また韓国内における古代芸能復活を可能にしていった。さらに、芸能のみならず古代における朝鮮半島の諸文化研究にも日本に残った伎楽は絶好の資料となった。過年の韓国演劇学会における招待報告や一連の新聞報道に続き、MBC もこうした点に大きく注目。国家の放送事業プロジェクトの一環としてこの番組を制作し 10 月 20 日に放送した。

研究員（客員）
朴　灿奎

## 進展するプロジェクト




### 「中朝をめぐる歴史認識とその今日的動態についての考察」

高句麗史渤海史に対する歴史評価が中国および南北朝鮮間で激しく議論されてきている。しかも純粋に科学的立場から解明しようという姿勢よりも、国益主義、民族主義的な方面からの議論が先に立ってきつつある。歴史評価は往々にして現代社会の様々な思惑から、学術的客観性を逸脱して多様な問題へと波及する可能性をはらんでいる。そうした傾向を排除しつつ、この地域に共生をもたらす歴史認識の形成は如何にして可能となるのか。本プロジェクトはこうした課題への一定の解答を得るための具体的且つ詳細な資料・データをまとめ上げようとするものである。本研究室では科研費の補助を得、学振外国人特別研究員朴灿奎延辺大学教授の支援のもと、本年度は特に北朝鮮における渤海史関連資料を精査し、これまで日本では得られていなかった分まで渤海国の朝鮮半島内の遺跡所在を確認した。本面では特に確認できた60カ所ほどの内、遺跡の集中する朝鮮半島北東部の所在ポイントを例示する。

さらに、本年度の主要な研究活動として、韓国・朝鮮言語文学関係では最大の学会韓国國語國文學會の機関誌『國語國文學』139 に招請論文「杜詩諺解テキスト系統研究の現況と課題」を発表し、また韓国ペンクラブのシンポジウムでは基調報告（招待）を行った。